

【交譲葉】俳句の会 報告

令和五年五月句会（第一三二回）

兼題 「五月晴れ」

開催日 令和五年五月二十七日

開催場所 流山市生涯学習センター

出席者 八名

投句者・選句者 八名

れている句になつていると感じます。

（互酬記）

（三点句）

むらさきの濃くなりけり五月晴 玄鳥

（二点句）

ひこにやんと並びし子らも五月晴 小牧

筍よここは座敷の真ん中ぞ 寿歩

妹と訪う故郷の潮風「かぜ」夏近し 小牧

ぼくたろう出世観音こどもの日 寿歩

（一点句）

五月晴れうなじ眩しやまとめ髪 寿歩

累々と首を切られし葱坊主 夢心

ぼうたんの白き重さや青き風 則子

風薫る庭木にかかる巣箱かな 玄鳥

（投句）

雲雨も分別弁え五月晴れ 互酬

五月晴れされど各地に涙雨 徹心

上京し予備校通う五月晴れ 艸寛

深呼吸見上げる空は五月晴れ 夢心

初鯉味見し友は今は亡き 艸寛

世界中生成の薄暑かな 互酬

五月晴れ青と黄色のシャツを着む 徹心

父ゆずり遊ぶ孔球新樹光 則子

腹一杯母手包みの笹団子 艸寛

喜雨の中一茶ゆかりの俳人來 玄鳥

絹莢を獲り遅れてやグリーンपी 夢心

『句会後記』

回を重ねて第132回目の句会、会員八名全員出席の句会となりました。まだまだ予断は許さないとはいえ、ようやくコロナ以前に戻ろうかという時、十二年目に突入するという節目の会になりました。未永く続けていきたいものです。

今月の兼題は「五月晴れ」。句会当日も気持ちよく晴れた五月晴れ。ところで五月晴れ本来の意味は陰暦五月の梅雨の晴れ間、梅雨晴れのことを言うのだそう、それが現在では新暦の月頃の良く晴れた天気という意味でも使われることが広まったとのこと。言葉は生きていて時代に連れて変わるということでしょうか。

句会では、荊妻とか孔球という言葉を新たに覚えました。生成㍑という言葉も詠まれています。季語と主題を入力したら、㍑が作句してくれる様になるのだろうか、ふとそんなことを思った次第です。

（夢心記）

（五点句）

●万緑のひと葉ひと葉の叫びかな 互酬

選評：万緑を木ではなく葉っぱに焦点を当てたことに驚き、『ひと葉ひと葉』の優しい言葉に葉ごとの緑や輝きを愛しんでいる様子が想像され感心しました。『叫び』から内から湧き上がるエネルギーの強さを受取り、詠み手の心象を追体験できるのも俳句の魅力と思いました。

（寿歩記）

（四点句）

●くうと鳴くホームに土鳩五月晴れ 則子

選評：世は五月晴れで気持ちの良い日、電車が停まりホームに目をやると、土鳩がクウクウと鳴きながら餌になるものを探し歩いている。只それだけの情景を詠んだ句であるが、ビジュアルが目には浮かび温かい気持ちになる。句会では、「くうくうとホームに土鳩五月晴れ」とする方が良いのではと、何人かの声があつた。

（徹心記）

●荊妻の手取り散歩す五月晴れ 徹心

選評：愚妻と言わずに荊妻（けいさい）というところに妻への真の愛情を感じ取れます。二人で手を取りは、ありのままの表現で、五月晴れの日の光景が、ほっと安心して読める句となりました。

（艸寛記）

●青嵐こだわりひとつ流しゆく 小牧

選評：作者は平成二九年五月に「青葉風こだわり一つ流しゆく」と詠んでいます。今回の作品の季語「春嵐」は、作者の意図するこだわりを激しく流し飛ばしたいと思う気持ち、強く伝わってきます。そして中句が「こだわりひとつ」とすべてひらがなになってストレートに「流しゆく」に、繋がってすつきり詠む事が出来ます。

花鳥風月でなく心の葛藤や思い入れが、強く滲ま